

「～ない」型形容詞に対する一考察

頼 錦 雀

0 はじめに

本研究は、台湾日本語教育のための、現代日本語形容詞研究の一環である。

日本語には、「おさない」「きたない」「相違ない」「つまらない」「情けない」などのように、「ない」によって形成される形容詞がある。管見の限りでは、一部の「～ない」形における「ない」の意味についての先行研究（例えば、岸本（1970））があるが、「～ない」型形容詞全般に関するものはあまり多くないようである。ここでは、「～ない」形はすべて形容詞なのか、「ない」が付いた「～ない」型形容詞の前部成分の内訳の実態は何か、「～ない」型形容詞における「ない」の意味は何か、「～ない」型形容詞の持っているイメージは何か、「～ない」型形容詞の丁寧形や敬語表現はどうなっているのか、「～ない」型形容詞の統語的職能は何か、そして、「～ない」型形容詞に対応する中国語は何か、というようなことを究明するのがねらいである。

1 「～ない」型形容詞の認定

「～ない」形はすべて形容詞なのか。

一部の「～ない」形は、形容詞か形容詞でないかということについて、学者や辞書によって見方が分かれている。表一は、細川英雄「現代日本語形容詞一覧稿」

(表一)

	細川	西尾	新潮	新明解	例解	大辭典	岩波	詳解
あられもない	○	○	○	○	○	○	連語	*
いけない	—	—	○	*	連語	○	連語	○
いたたまれない	—	—	—	*	連語	○	連語	*
おもいがけない	○	—	○	○	○	○	連語	○
こよない	○	○	文語	—	—	—	文語	—
しかたがない	○	—	—	—	—	—	—	—
しのびない	—	—	—	○	連語	○	連語	○
しょうがない	○	—	—	○	—	—	連語	—
せつない	○	—	○	○	○	○	○	○
そういない	—	—	—	—	—	○	—	*
たまったもんじゃない	○	—	—	—	—	—	—	—
たまらない	—	—	—	*	*	連語	連語	○
ちがいない	○	—	—	○	—	連語	連語	*
つまらない	—	○	○	*	○	○	連語	○
とんでもない	○	○	○	○	○	○	連語	○
ならびない	—	—	○	○	○	○	○	○
やりきれない	—	—	連語	*	○	○	連語	○

(細川)、西尾寅弥『形容詞の意味・用法の記述的研究』(西尾)、山田俊雄・他『改訂新潮国語辞典——現代語・古語——』(新潮)、山田忠雄・他『新明解国語辞典』第四版(新明解)、林巨樹監修『現代国語例解辞典』(例解)、金田一春彦・他『日本語大辞典』(大辞典)、西尾実・他『岩波国語辞典』第四版(岩波)、山口明穂・他『詳解国語辞典』(詳解)における「～ない」型形容詞に対する認定の実態である。「○」は形容詞として認められていることを、「*」は見出し語として出ているが形容詞の表示がないことを、「—」は見出し語として出ていないことを表わす。そして、「連語」「文語」はそれぞれ「連語」「文語」という表示があることを表わす。

表一を見て分かるように、「切ない」はどの辞書でも形容詞だと認められている。「も」が付いた「とんでもない(←取り手+も+ない)」「あられもない(あら+れ+も+ない)」も、殆ど形容詞として認められている。そして、動詞に「ない」が付いた場合(例: いけない　しのびない　たまらない　つまらないなど)は形容詞として認められたり認められなかったりする。

「動詞+ない」の内訳は次の通りである。

(A) 動詞連用形+ない　　例: 頼りない　並びない

(B) 動詞未然形+ない　　例: いけない　思いがけない

(A)の「頼りない」は「頼りがない」とも言う。これは「しかたない」と「しかたがない」と両方の語形があるのと同じようなものである。この場合の「ない」は形容詞の「ない」であるので、「動詞連用形+ない」も勿論形容詞である。

(B)の場合の「ない」は動詞未然形に付く「ない」であり、学校文法では助動詞と見做され、表二の理由で形容詞の「ない」と区別されている^①。「ない」の前に「は・も」が付くか付かないかということについてすでに、動詞の場合は

① 白石(1956) p163～164 参照

(表二)

動詞に付く「ない」	形容詞に付く「ない」
行かない	おもしろく ^は ない。
{行かなくて 行かないで	おもしろくなくて
行かなそうだ	おもしろくなさそうだ

「流れはしない」「流れもしない」というようにして用いられ、形が違うに過ぎない、と反論されている^②。「そうだ」を付けた場合「さ」が入るか入らないかということについては、「お金があまりなさそうだ」「おひるまでは、とても着けなさそうだ」(松村明編『日本文法大辞典』p.397)のように、「～ない」形はすべて同じ用法で用いられているのである。「さ」が入るか入らないかをもってそれを、形容詞「～ない+～」における「ない」は助動詞か形容詞かの認定基準にすることの不確実さは、次のようなゆれ現象でも分かる。

- 1 ……大人の関係に対する訓練がなさすぎるのである。

(河合隼雄「援助交際という『訴え』」1997年5月6日産経新聞)

- 2 ……それにしては実情を知らなすぎるのではないか。

(野瀬和紀「尖閣問題『国際司法裁へ提訴』に反対」1997年5月5日産経新聞)

- 3 彼らは平和の証だというのは、あまりにも地球の現実を知らなさすぎる考えだ。

(曾野綾子「ナイフを持たない男たち」1997年1月15日産経新聞)

上の用例を見て分かるように、形容詞「ない」と「過ぎる」の間に「さ」が入っているが、動詞の否定表現「～ない」形と「過ぎる」の間に「さ」が入っている

② 時枝(1950) p193～194 参照

こともあるし、入らないこともある。

なお、形容詞「ない」と「そうだ」「過ぎる」の間に入る「さ」は、語音構造の補強音節であり、長い語幹の場合は、「さ」が「ない」と「そうだ」の間に入らないこともある（例4～7を参照されたい）^③。

4 なさけなさそうだ。

5 なさけなそうだ。

6 くだらなさうな本。

7 くだらなさうな本。

そうすると、結果としては、「動詞未然形+ない+そうだ」と「～+形容詞接尾語ない+そうだ」の語形は同じように「さ」が入ったり入らなかったりする「ゆれ現象」になる。言い換えれば、「さ」は単音節になる「ない」の語幹「な」の語音構造の補強音節に過ぎない。それを形容詞の「ない」か動詞未然形に付く助動詞の「ない」かの認定基準にするのは不当である。

それでは、「～ない」形はすべて形容詞なのか。確かに、形態的には、その前部成分は何であれ、「い」という形容詞語尾から見れば「～ない」形は形容詞だと言えようが、しかし、次のような、否定の意味が消えて勧誘の意味に変わる「～ない」の用法を見れば、動詞未然形に「ない」が付いたものはすべて形容詞だという言い方の危険性が分かる。

8 一緒に行かない。(↗)

9 御覧にならない。(↗)

10 何か飲まない。(↗)

例8～10の「～ない」における動詞はすべて動作動詞である。そして、次の用例を見て分かるように、辞書で「形容詞」と認められている「動詞+ない」における動詞は動作動詞ではなく、状態を表わすものである。

③ 渡辺（1964）を参照

11 ……恥ずかしさに居たたまれないおもいだ。(安岡章太郎『驢馬の声』
『感情表現辞典』より)

12 その思いがけない美しさでひととき私の心を奪っていたアカシアの花。
(堀辰雄『美しい村』『感情表現辞典』より)

13 私はやりきれない空しさに捕らえられ……。
(高橋和巳『悲の器』『感情表現辞典』より)

ちなみに、「～ないで」の形で用いられるのは、「よくかまないで食べてはいけませんよ」「今日授業をしないで、教育映画を見せた」④のような動作動詞であるのは普通である。

以上考察したことにより、「動詞未然形+ない」における動詞が状態動詞である場合、「～ない」形は形容詞として認められるが、「動詞未然形+ない」における動詞が動作動詞である場合、その「～ない」形は形容詞として認められない。つまり、「～ない」形はすべて形容詞とは言えない。

なお、「こよない」は殆どの辞書においては形容詞と見做されていないが、ここでは西尾(1972)に従って、形容詞とする⑤。但し、例14～16で見ると、「～なく」の形でしか用いられないものは形容詞としない。

14 みんなが又満遍なく口を利くようになった。
(夏目漱石『明暗』『学研国語大辞典』より)

15 私はお嬢さんがほっそりとしてどこか病身らしいのをみて何となく気に
いってしまった。

(中勘助『銀の匙』『学研国語大辞典』より)

16 机の中をかきまわし、室内を隈なく調べまわった。
(吉村昭『戦艦武蔵』『学研国語大辞典』より)

④ 佐藤(1971)参照

⑤ 西尾(1972) p153参照

2 「～ない」型形容詞の前部成分の内訳

ここでは、「～ない」型形容詞の語構成について見てみたい。

「～ない」型形容詞の語構成を分析するにあたり、漢字表記や現代語の常識だけで見てはその実態を掴めない恐れがあるので、『岩波古語辞典』及び『日本国語大辞典』（小学館）などを参照して、各造語成分の語源を極めるようにつとめた。例えば、「こころもとない」は漢字表記の「心許無い」から見れば、「名詞＋ない（形容詞）」という複合語かと思われようが、実はその語構成は「こころ＋もとな（副詞）＋い」である^⑥。「あぶない」は現代語では下位分析不可能だと思われようが、それは「あやぶし」の語根の略に「ない」が付いたものだという説^⑦に従えば、「語根＋ない」という語構成に分析される。それと同じ語構成を持つ「～ない」型形容詞は他に「おっかない きたない すくない いたいけない せわしない」などが見られる。

それから、「並びない」は名詞として用いられる「並ぶ」の連用形に形容詞「ない」が付いたものであるが、「忍びない」は古語の上二段動詞「しのぶ」の未然形に否定を表わす助動詞「ない」が付いたものである^⑧。そして、「ほいない」は「ほんいない（本意無い）」の「ん」が脱落した語形である^⑨。「拙い」「幼い」はそれぞれ、語根の「つた（勤）」「をさ（長）」に形容詞の「ない」が付いたものである^⑩。「ふがない」は「いふかひなし」における「いふ」の

⑥ 『岩波古語辞典』「こころもとなし」項参照

⑦ 『日本国語大辞典』「あぶない」項参照

⑧ 『岩波国語辞典』「しのびない」項参照

⑨ 『日本国語大辞典』「ほい」項に、「ほんい（本意）の撥音「ん」の無表記」と記してある。

⑩ 『日本国語大辞典』「つたない」項、『岩波古語辞典』「をさなし」項参照

頭音「い」が脱落してできた語である⑩。

この度は、細川英雄『現代日本語形容詞語彙一覧稿』、山田忠雄・他『新明解国語辞典』（第四版）、北原保雄『日本語逆引き辞典』から採集した標本を対象として考察したが、「～ない」型形容詞は「ない」の前の造語成分の内訳によれば、次のように分類される。

(イ) ～な＋い

例：ころもとない

(ロ) ～ない（甚だしいの意の語尾）

ロ-1 名詞＋ない

例：おおけない おっかない いわけない きたない はしたない

ロ-2 形容詞＋ない

例：せわしない あぶない

ロ-3 形容動詞＋ない

例：いたいけない あどけない いとけない

しどけない えげつない ぎこちない せつない

ロ-4 副詞＋ない

例：少ない

(ハ) ～ない（何かの存在を認めない意を表わす形容詞）

ハ-1 名詞＋ない

ハ-1-1 名詞＋ない

例：甲斐ない 類ない 所在ない

遠慮会釈ない 何気ない さりげない

ハ-1-2 動詞連用形＋名詞＋ない

例：言い甲斐ない 申し訳ない 絶え間ない

⑩ 『日本国語大辞典』「ふがない」項参照

ハ-1-3 動詞連体形＋名詞＋ない

例：ふがない　遣る瀬ない　遣る方ない　止ん事無い

抛無い

ハ-1-4 連体詞＋名詞＋ない

例：この上ない

ハ-1-5 接頭語＋名詞＋ない

例：すげない

ハ-1-6 感動詞＋名詞＋ない

例：あじきない　あじけない

ハ-1-7 動詞＋助動詞＋名詞＋ない

例：為ん方無い

ハ-2 動詞＋ない

ハ-2-1 動詞連用形＋ない

例：違いない　敢えない　頼りない　並びない

ハ-2-2 動詞連体形＋ない

例：止む無い

ハ-3 形容動詞＋ない

例：おぼつかない

ハ-4 接頭語＋形容詞＋ない

例：お安くない

ハ-5 ～＋助詞＋ない

ハ-5-1 名詞＋助詞＋ない

例：しょうがない　しょうがない　意気地がない

果てしない

そこはかとなない

埒もない　途轍もない

他でもない 何にもない

ハ-5-2 動詞＋助詞＋ない

例：隠れもない

ハ-5-3 動詞＋助動詞＋助詞＋ない

例：みっともない あられもない

ハ-5-4 副詞＋助詞＋ない

例：またとない

ハ-6 ～＋助動詞＋ない

ハ-6-1 副詞＋助動詞＋ない

例：そでない

ハ-6-2 動詞＋助動詞＋名詞＋助動詞＋ない

例：たまったもんじゃない

(ニ) ～ない (打消し助動詞)

ニ-1 動詞未然形＋ない

例：いけない 思いがけない 忍びない 下らない

たまらない つまらない そぐわない

飽き足りない

ニ-2 接頭語＋動詞未然形＋ない

例：いけ好かない 物足りない

(ホ) その他 (「～ない」形容詞が後部成分である合形成容詞)

ホ-1 名詞＋～ない

例：残り少ない 口さがない

ホ-2 形容詞＋～ない

例：薄ぎたない

ホ-3 接頭語＋～ない

例：小きたない

(イ)類は語形としては「心許無い」と、形容詞の「ない」によるもののように見えるが、実はこれは「こころ(心) + もとな(副詞) + い」という構成であり、(ロ)以下の「ない」と出自も意味も違っている。

(ロ)類は「甚だしい」という意の接尾語「ない」によるものであるが、現代語の漢字表記では「汚い」のように「ない」が表記形として独立していない例も見られる。今度の考察では、標本全体の11.81%(15語/127語)を占めている。時代性から言えば、現代語におけるその造語力はもう衰えたと言える。

(ハ)類は何かの存在が認められないという形容詞「ない」によるものである。この度の考察では、「～ない」型形容詞全体の79.53%(101語/127語)と圧倒的に多いが、「仕方がない・仕方ない」という例や話し言葉ではよく格助詞「が」を略して言う現象から見れば、この類型の新語はこれからもどんどん出てくると予測される。例えば、「変わらない」「申分ない」は、今度の考察ではそれが見出し語として辞書に登録されていないようだが、「彼は心から自分の孤独を感じた、それは今、寒い空の下に酔い倒れている乞食と変わらない孤独だった」(志賀直哉『暗夜行路』『感情表現辞典』より)「野球は母校のX大学が勝って、吉野君としては洵に申分ない気持ちであった」(小沼丹『更紗の絵』『感情表現辞典』より)というように形容詞として用いられる例が見られる。

造語成分の職能的関係から見ると、(ハ)類は「名詞+形容詞」である。それは「主語+述語」という文型が基本的に存在している形容詞文の統語的職能と一致している。このことは(ハ)類が忠実に日本語の文の構造を反映していると言える。但し、ここの「ない」は派生意味を生じないので、その生産性が他の同形造語成分「ない」より強いと言っても、派生意味を生じるもう一つのマイナス評価の造語成分「くさい」ほど強くはないと思う^⑫。

(ニ)類は状態を表わす動詞の未然形に打消し助動詞の「ない」が付いてでき

⑫ 頼(1997)を参照されたい。

たものである。全体の 7.87% (10 語 / 127 語) を占めている。前部成分が状態動詞という制限によって、この類型の新語の形成は限られていると言えよう。

(ホ) 類は「ない」による形容詞の前に更に他の造語成分が来てできた語である。全体の 3.14% (4 語 / 127 語) しか占めていない。

全体的に言えば、「～ない」型形容詞は文と語の両面を備えている。文として長くなく、語として短すぎないという文と語の両方の長所を兼ねて、程よい長さで、ある意味を表わしているのである。そして、語の生産性においては、(イ)(ロ) 類が皆無で、(ニ)(ホ) 類はすごく弱い、(ハ) 類はわりと強い。

ちなみに、岸本 (1970) は、「とんでもない」は「とんだ」からのものであり、「碌でもない」「極まりない」「くだらない」「つまらない」などにおいては、「ない」のあるなしにかかわらず同義であると述べているが、筆者はそれと見解が異なっている。『日本国語大辞典』「とんでもない」「とでもない」項によれば、「とんでもない」の語源は「トリデモナキ」である。確かに、「全くとんでもない娘」は「全くとんだ娘」と使えるが、「とんでもない時間に電話が掛かってきた」「とんでもない質問を出して先生を困らせる」「お金があり余ってるんでしょう / とんでもない」における「とんでもない」は「とんだ」では言い換えられない^⑬。故に、「とんでもない」と「とんだ」とは別系統のものだと思う。そして、次の例を見て分かるように、「碌でもない」「極まりない」「くだらない」「つまらない」は、「ない」のあるなしによって違うのである。

{ 碌でもない映画
? 碌な映画

{ 危険極まりない遊び
? 危険極まる遊び

{ くだらない話
? くだる話

⑬ 森田良行『角川小辞典 8 基礎日本語 2』P352 参照

{ こんな所で働いてもつまらない。
? こんな所で働いてもつままる。

3 「～ない」型形容詞の丁寧形と敬語表現

2で考察したように、「～ない」型形容詞における「ない」は四種類に分かれている。それでは、その丁寧形と敬語表現はすべて同じなのか、見てみたい。

現代語では普通、形容詞「ない」の丁寧形は「ないです」「ありません」とされている。そして、(イ)(ハ)類の丁寧形は「～ないです」「～ありません」である、例えば、「心許ないです」「心許ありません」、「ごぶさたして申し訳ないです」「ごぶさたして申し訳ありません」、「情けないです」「情けありません」、「面目ないです」「面目ありません」、「しょうがないです」「しょうがありません」。しかし、(ニ)類の丁寧形は「～ないです」はあるが、「～ありません」は見られない。そして、「～ありません」の変わりに「～ません」が用いられる。例えば、「つまらない」の丁寧形は「つまらないです」「つまりません」である。「たまらない」の丁寧形は「たまらないです」「たまりません」である。

(ロ)類の丁寧形は、「～ないです」であり、「～ありません」も「～ません」も見られないようである。例えば、「危ないです」「きたないです」と言うが、「あぶありません」「きたありません」とは言わない。

形容詞の敬語表現には、「お+形容詞です」「お+形容詞の音便形+ございます」「形容詞く形+ていらっしゃいます」の形式がある。では、「～ない」型形容詞にもこのような敬語表現が用いられるのか、考えてみたい。

敬語表現は普通、誰かに敬意や丁寧な気持ちを表わすものであるので、プラス評価の言葉に用いられるのである。筆者の考察では、「～ない」型形容詞のうち、「子供のあどけない寝顔を見入る」というようなプラスイメージのものも、「息

子はまだいとけない」「本屋のようなあぶなげない商売なら安心ですよ」のような非マイナスイメージのものもあるが、「おさない時両親を失った」「大学生にもなってそんなおさない考え方では困る」のような非マイナスイメージの側面とマイナスイメージの側面を両方持つものもある^⑭。プラスイメージの語は勿論、敬語表現で用いられることがあるが、但し、その語数はそれほど多くない。そして、マイナスイメージのものに、「おつまらないです」「お切のうございます」「つまらなくていらっしゃいます」と、わざわざ敬語表現を使うことが考えられないので、「～ない」型形容詞の大部分に敬語表現がないと判断しても差支えなからう。

なお、「とんでもない」の丁寧形については、その造語成分の「ない」は「否定」ではなく、「たいそう……だ」という意味だから、「とんでもありません」「とんでもございません」は誤用に基づく慣用だという説も見られる^⑮が、ここでは、『日本国語大辞典』に従い、「ない」を否定の意味と解釈するので、「とんでもありません」「とんでもございません」を誤用としない。

4 「～ない」型形容詞の統語的機能

ここではまず、「～ない」型形容詞の取る格について見てみたい。

17 うちは家族が少ない。 (飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』)

18 奴は育ちがいやしいから口がきたない。

(飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』)

19 世の中がだんだん味気無くなってきたなあ。

(陳有光『日本語形容詞辞典』)

20 熱かんで一杯がたまらないね。

(宋文軍『日中辞典』)

⑭飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』各項参照

⑮林巨樹監修『現代国語例解辞典』「とんでもない」項参照

筆者の考察では、「～ない」型形容詞が述語になった場合、上の用例17～20で見たように、「が」格を取ることが一番多い。その「が」は主体を指すもの（例17 18）もあるが、話し手にそのような感じを持たせる事物を指す「客観的主格」^⑬を表わすもの（例19、20）もある。

また、次の用例のように「に」格を取るものも見られる。

- 21 そんなに病気をしていると殺すぞと嚇かせば臆病なる主人のことだから
びりびりと忤^{ふる}え上がるに相違ない。

（夏目漱石『吾輩は猫である』『感情表現辞典』より）

- 22 見るに忍びない。 （森岡健二・他『集英社国語辞典』）

- 23 世に並びない画家。 （宋文軍『日中辞典』）

- 24 私共は今度の事故の犠牲者に申し訳ない。 （西原鈴子・他『形容詞』）

例21～23の「に」は比較の基準を表わすが、例24の「に」は「申し訳ない」という感情の対象を表わす。但し、この類の「～ない」型形容詞はあまり多くないようである。

「が」格と「に」格と両方取るものも見られる。

- 25 結論の出し方が飽き足りない。 （大連外語学院『新日漢辞典』）

- 26 今の生活に飽き足りない。 （林巨樹『現代国語例解辞典』）

- 27 彼の生活態度は（が）だらしない。

（飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』）

- 28 奴は女にだらしない。 （飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』）

例25～28の「に」は例21～24と違って、物事に対する態度の向けられる対象を表わすのである。この「が」格と「に」格と両方取る「～ない」型形容詞もあまり多く見られない。

ちなみに、「～ない」型形容詞は他に、「今日から危ない」「我が子は誰よりも

⑬「客観的主格」は北原（1984）の用語である。

もあどけない」「地位は勿論、命まで危ないよ」というように、「から」格、「より」格、「まで」格を取ることが考えられるが、「相違ない」「忍びない」「並びない」などは、それを取らないものである。

「～ない」型形容詞には、次の用例のように述語としてではなく、連体修飾語か連用修飾語として用いられることが多いものもある。

29 彼女のあられもない姿にみんなびっくりした。

(飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』)

30 彼のなにげない一言が彼女をひどく傷付けた。

(飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』)

31 彼女はなにげなく夫のカバンを開けた。

(飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』)

32 にべもなく断る。

(宋文軍『日中辞典』)

33 大家に家賃を待ってくれと頼んだが、払えなければ出て行ってくれと言うにべもない返事だった。(飛田良文・他『現代形容詞用法辞典』)

5 「～ない」型形容詞に対応する中国語

次は、「～ない」型形容詞に対応する中国語を見てみたい。「～ない」型形容詞に対応する中国語を見ると、否定を表わす「不～」「無～」「沒～」「沒有～」とそうでないものとの二種類に大別できる。中国語で「不～」「無～」「沒～」「沒有～」になるものは、2 で見た (イ) (ハ) (ニ) 類の「～ない」型形容詞である (例34～40を参照されたい)。

34 子供は大学の入学試験に必ず受かると言っているが私にはどうも心許無くて堪らない。／雖然小孩說大專聯考絕對考得上，可是我總感到不安。

(陳有光『日本語形容詞辞典』)

35 はしたないふるまいをする。／舉止不體面。(宋文軍『日中辞典』)

36 あの人は事件にあうなんてほんとうに思いがけない。／真想不到他會遇上事件。（宋文軍『日中辞典』）

37 見るに忍びない。／目不忍睹。（大連外語学院『新日漢辞典』）

38 なんだ、くだらない。／真無聊。（宋文軍『日中辞典』）

39 どうにも仕方ない。／實在沒辦法。（宋文軍『日中辞典』）

40 言っても詮無いことだ。／說了也沒有用。

（大連外語学院『新日漢辞典』）

そして、（ロ）は次の用例のように、中国語ではいろいろな表現になる。

41 おっかない夢を見た。／做了個可怕的夢。

（大連外語学院『新日漢辞典』）

42 はたちになってもまだいわけない。／滿二十歲還是孩子氣。

（劉元孝『永大當代日華辭典』）

43 彼はいつもせわしない。／他總是忙忙碌碌的。（宋文軍『日中辞典』）

44 ああ、切ない。／啊！真難受！（宋文軍『日中辞典』）

45 いとけない幼児。／天真的幼兒。（宋文軍『日中辞典』）

6 しめくくり

以上考察した結果によると、次のようなことがまとめられる。形容詞には「～ない」型があるが、「～ない」形はすべて形容詞とは限らない。動作動詞の未然形に打消しの「ない」が付いた「～ない」形は形容詞とは言いかねる。「～ない」型形容詞の語構成にはいろいろな種類があるが、一番多いのは「名詞＋ない」型である。「～ない」型形容詞における「ない」の意味は、その出自によって違っている。「こころもとない」の「ない」は実は「こころもとな」という副詞的表現の語尾の「な」に形容詞形成のために「い」を付けたものである。「おさない」「すくない」「せつない」の「ない」は甚だしいの意を表わす。そして、「情け

ない 申し訳ない」の「ない」と「忍びない つまらない」の「ない」は否定の意を表わすが、前者は何かの存在を認めない意を表わす形容詞で、後者は動詞の否定の意を表わす助動詞で、その出自は違っている。

丁寧形表現においては、他の形容詞と違って、「～ない」型形容詞の丁寧形は「～ないです」「～ありません」の他に、「～ません」という形も見られる。但し、造語成分「ない」の出自や意味によって、各類型に違いがある。甚だしいの意の「ない」からできたものは、「～ないです」という丁寧形しかないが、「こころもとない」及び、何かの存在を認めない意を表わす「ない」によるものは、「～ないです」「～ありません」との二つの丁寧形が用いられる。そして、動詞の否定の意を表わす「ない」からのものは、「～ないです」の丁寧形が用いられるが、「～ありません」の丁寧形が用いられない。但し、前の二類と違って、「～ません」という丁寧形が用いられる。

統語的職能から見た場合、「～ない」型形容詞の多くは「が」格、「より」格を取るが、一部「に」格を取るものもある。文の成分としては、殆どの「～ない」型形容詞が述語になるが、述語としてではなく、連体修飾語か連用修飾語としてしか働かないものも見られる。

中国語と対照比較してみれば、「～ない」型形容詞に対応する中国語は、否定を表わす「不～」「無～」「没～」「沒有～」とそうでないものとの二種類に大別できる。それは造語成分「ない」の意味による違いである

台湾日本語教育においては、形容詞の語尾変化という文法的形態を重視していることは確かであるが、語構成や各造語成分の意味的違いによる統語職能や表現形式の差異についてはあまり言及しない嫌いがあるように思われる。小論は、台湾日本語教育における形容詞指導に何か役に立つことがあれば幸甚である。

参考文献

- 岸本末彦 1970 「形容詞の心理学的研究」
『大阪教育大学紀要 19 卷第 I 部門』
『国語学論説資料』第 8 號第 4 分冊再録
- 北原保雄 1984 「主語をめぐる問題」『日本語文法の焦点』1992 初版第四刷
教育出版
- 櫻井光昭 1984 「形容詞の諸問題」『研究資料日本文法 3』 明治書院
- 佐藤洋子 1971 「否定の言い方について」
『講座日本語教育第 8 冊』1981 2 版
早稲田大学語学教育研究所
- 時枝誠記 1950 『日本文法口語篇』1968 21刷 岩波書店
- 西尾寅弥 1972 『形容詞の意味・用法の記述的研究』1981 4版 秀英出版
- 西原鈴子・他 1987 『形容詞』 荒竹出版
- 細川英雄 1988 「現代日本語形容詞一覧稿」
『日本語論説資料』第 25 号第 5 分冊再録
- 頼 錦雀 1997 「『～くさい』型形容詞に対する一考察」
『東呉外語学報』第拾貳期 東呉大学
- 渡辺 実 1964 「よさそうだ・なさそうだ」『口語文法講座 3』明治書院
- 大野晉・他 1974 『岩波古語辞典』1981 8刷 岩波書店
- 北原保雄 1990 『日本語逆引き辞典』大修館
- 金田一京助・他 1972 『日本国語大辞典』小学館
- 金田一春彦・他 1989 『日本語大辞典』講談社
- 中村 明 1979 『感情表現辞典』1988 六刷 六興出版

- 西尾実・他 1963 『岩波国語辞典』1992 第四版 岩波書店
- 林巨樹監修 1985 『現代国語例解辞典』1986 第三刷 小学館
- 飛田良文・他 1991 『現代形容詞用法辞典』 東京堂
- 松村 明 1971 『日本文法大辞典』 明治書院
- 森岡健二・他 1993 『集英社国語辞典』 集英社
- 森田良行 1980 『角川小辞典 8 基礎日本語 2』 角川書店
- 山口明穂・他 1985 『詳解国語辞典』1986 重版 旺文社
- 山田忠雄・他 1989 『新明解国語辞典』第四版 三省堂
- 山田俊雄・他 1974 『改訂新潮国語辞典——現代語・古語』
-
- 宋文軍・他 1987 『日中辞典』 小学館
- 大連外語学院 1982 『新日漢辞典』 1990 第 4 刷 東方書店
- 陳有光 1984 『日本語形容詞辞典』 衆文圖書
- 劉元孝 1985 『永大當代日華辭典』 永大書局

(付録) 「～ない」型形容詞語構成一覧表

1. この「『～ない』型形容詞語構成一覧表」は、細川英雄「現代日本語形容詞語彙一覧稿」及び山田忠雄・他『新明解国語辞典』（第四版）・北原保雄『日本語逆引き辞典』から採集した形容詞を対象とする。

2. 細川英雄「現代日本語形容詞語彙一覧稿」の採録文献は次のようなものだという。

国立国語研究所『分類語彙表』

西尾虎弥『形容詞の意味・用法の記述的研究』

時枝誠記『例解国語辞典』

西尾実・他『岩波国語辞典第四版』

文化庁『外国人のための基本語用例辞典（第二版）』

国際交流基金『日本語初歩』

甲斐睦朗『小学校国語教科書の学習語彙表とその指導』

3. 語源は、文語にあるもの*は『岩波古語辞典』に、あとは『日本国語大辞典』（小学館）によって調査する。語源が複数有る時或いははっきりしない時は、筆者の判断によって取捨選択する。

4. 英文字はそれぞれ次のような意味を表わす。

A：形容詞 N：名詞 V：動詞 AV：形容動詞 C：助詞

AU：助動詞 P：接頭語 S：接尾語 I：感嘆詞 AD：副詞

L：連体詞 e：語尾（い）

甲斐無い 甲斐+無い NA

言い甲斐無い 言い+甲斐+無い VNA→NA

違いない 違い+無い VA→NA

腑甲斐無い	言ふ＋甲斐＋無し→（上略して）ふがいなし →ふがない	VNA→NA
類無い	類＋無い	NA
如才無い	如才＋無い	NA
所在無い	所在＋無い	NA
勿体ない	勿体＋ない	NA
ほい無い	ほんい（本意）＋無い→ほいない	NA
他愛 ^{たわい} 無い	他愛 ^{たわい} ＋無い	NA
腹蔵無い	腹蔵＋無い	NA
敢え無い	敢え＋無い	VA→NA
この上無い	この＋上＋無い	LNA
しょうがない	しょう＋が＋ない	NCA
しょうがない	しょう＋が＋ない→しょうがない	NCA
さがない＊	さが（性）＋ない	NA
口さがない	口＋さが（性）＋ない	NNA→NA
しがない	（「さがない」の変化した語）	NA
意気地がない	いくじ＋が＋無い	NCA
いけ好かない	いけ（非難する気持ち）＋好か＋ない	PVAU
仕方が無い	仕方＋が＋無い	NCA
おっかない＊		NS
恙無い＊	恙＋無い	NA
覚束無い	おぼ（ぼんやりした状態）＋つか（形容の接尾語） ＋ない	AVEA
果敢無い＊	はか（計）＋無し	NA
罪がない	罪＋が＋ない	NCA
味気 ^き 無い＊	「ああつきなし」の変化	INA

味 ^け 気無い＊		INA
余儀無い	余儀（除の意）＋無い	NA
揺ぎ無い	揺ぎ＋無い	VA→NA
少ない＊	すこ（少し）いたし	ADS
お安くない	お＋安く＋ない	PAA
残り少ない	残り＋少ない	VA→NA
屈託無い	屈託＋無い	NA
面 ^{ほく} 目無い	面目＋無い	NA
面 ^{もく} 目無い	面目＋無い	NA
遠慮会釈無い	遠慮＋会釈＋無い	NNA→NA
いけない	いける＋ない	VAU
幼気ない＊	いたいけ（「痛き気」の音便）	AVS
おおけない＊	おおけ（大気）＋なし	NS
思いがけない	思い＋がけ＋ない→思いがけ＋ない	NVAD→VAU
情け無い＊	情け＋無し	NA
すげない＊	す（接頭語）＋け（気）＋なし（接尾語）	PNA
素っ気ない	素っ気＋ない	NA
あどけない＊	あとど（跡抛）＋け（気）＋なし （あどなし＋け（気）→あどけなし）	AVS
いとけない＊	いと（幼少の意）＋け（気）＋なし	AVS
しどけない＊	しどけ（静気）＋なし	AVS
大人気無い＊	大人＋気＋無し	NSA→NA
危な気無い	危な＋気＋無い	ASA→NA
似気無い	似＋気＋無い	VSA→NA
何気ない＊	何＋気＋なし	NSA→NA
然り気無い	然り＋気＋無い	VSA→NA

訳無い	訳+無い	NA
稚ない*	いわけ+なし	NS
申し訳無い	申し+訳+無い	VNA→NA
造作無い	造作+無い	NA
幼い*	をさ(長)+無し	NA
大事無い	大事+無い	NA
果てし無い*	果て+し(助詞)+無い	NCA
由無い*	由+無し	NA
だらしない	しだら+無い→だらし+無い	NA
忙しい	せわし(忙しい)+ない	AS
遣る瀬無い	遣る+瀬+無い	VNA
頑是ない	頑是+ない	NA
仕方無い	仕方+無い	NA
遣る方無い	遣る+方+無い	VNA
為ん方無い	為+ん+方+無い	VAUNA
汚い*	きた(「北」と同根)+なし	NS
小汚い	小+きたない	PNS→PA
意地汚い	意地+汚い	NA
薄汚い	薄+汚い	AA
口汚い	口+汚い	NA
腹汚い	腹+汚い	NA
はしたない*	はした+なし	NS
拙い*	勤なし	NA
ぎこちない*	「ぎこつない」の変化・「ぎごちない」とも	AVS
えげつない	(方言)えぐっけ(氣)なし→えげつなし	AVS
^{じつ} 術無い	術+無い	NA

術 ^{じゅつ} 無い	術+無い	NA
氣 ^き 術 ^{ずつ} 無い	氣+術+ない→氣+術無い	NNA→NA
切ない*	切+なし(甚し)	AVS
そでない*	さようでない→そでない	ADAUA
そこはかとな	そこ(其処)+はか(果処)+と+ない	NNCA
止ん事無い	止む+事+無い	VNA
またとな	また+と+ない	ADCA
心許無い*	心+もとな(副詞)+い	NADe
是非無い	是非+無い	NA
忍びない	忍び+ない	VAU
並びない	並び+ない	VA→NA
危ない*		AS
術無い	術+無い	NA
絶え間ない	絶え+間+ない	VNA→NA
澱みない	澱み+ない	VA→NA
止む無い	止む+ない	VA
益体も無い	益体+も+無い	NCA
影も無い	影+も+無い	NCA
埒も無い	埒+も+無い	NCA
途轍もない	途轍+も+ない	NCA
他でもない	他+で+も+ない	NCCA
とんでもない	取り手+も+無し→とんでもない	
	→とんでもない	NCA
何でもない	何+で+も+ない	NCCA
見っともない	見+たい+も+ない→みとうもない	
	→見っともない	VAUCA

何にもない	何+に+も+ない	NCCA
鰻膠もない	鰻膠（粘り気→愛想）+も+ない	NCA
性懲りもない	性懲り+も+ない	NCA
一たまりも無い	一たまり+も+無い	NCA
隠れもない	隠れ+も+ない	VCA→NCA
あられもない	あら+れ+も+ない	VAUCA
遠慮ない	遠慮+ない	NA
たまったもんじゃない	たまる+た+もん+じゃ+ない	VAUNAU
力無い	力+無い	NA
下らない	くだら+ない	VAU
しだらない*	しだら+ない	NA
たまらない	たまら+ない	VAU
つまらない	つまら+ない	VAU
限りない	限り+ない	VA→NA
飽き足りない	飽き+足り+ない	VVAU→VAU
物足りない	物+足り+ない	PVAU
極まりない	極まり+ない	VA→NA
頼りない	頼り+ない	VA→NA
理ない	わり（理）+ない	NA
つれない	連れ無し	VA→NA
心無い	心+無い	NA
何心無い	何+心+無い	NNA→NA
抛無い	よる+所+無い→よんどころない	VNA
そぐわない	そぐは（そぐふ）+ない	VAU
詮無い	詮+無い	NA